

## 薬理系実習における TBL 教育の導入

○武藤 純平<sup>1</sup>, 比佐 博彰<sup>1</sup>(<sup>1</sup>九州保福大薬)

【目的】チーム型学習 (Team-Based learning, TBL) は能動型学習態度を促進させる学習技法の一つである。TBL は、学習者が数名のグループを形成して課題に取り組み、グループとしての成果とグループへの貢献度が個人の評価に反映される。そこで、平成 25 年度前期に九州保健福祉大学薬学科 3 年生対象に実施された薬理系実習に TBL の手法を導入し、受講生の実習態度を評価し、TBL による有用性を検討した。

【方法】受講生 (103 名) を 2 クラスに分け、1 クラスの実習生を 6~7 名のグループに分け実習を行った。実習期間は 9 日間 (うち 2 日間は発表・討論時間) であり、各回の実習は<知識の確認・実験の説明・実験操作・データ解析>から成っている。知識の確認において以下の通り TBL を実施した。

〔個別テスト〕学生は実習テーマ毎に予習を課せられている。予習項目の知識習得についてマークシート形式の試験を行った。〔グループテスト〕個人で行ったものと同じ問題をグループで行った。〔応用問題〕テーマに関連した応用問題をグループで討論・解答させた。また、グループ構成員の貢献度についてピア評価を期間中 2 回行った。実習期間後に、知識確認の実習試験を行うとともに、TBL に関するアンケート調査を行った。

【結果・考察】自身の取り組みがグループの成績に反映されるとあって、実習中における実習生の取り組みは概ね積極的であった。特に、グループテストでは積極的に意見交換し知識習得に努めているようであった。アンケートの結果、様々な意見が出されたが、実習生の能動的な学習に役立っているようであり、実習においても TBL の導入は有用であると思われた。